

# エコフィード飼料も活用した ブランド肉の確立と作業効率の向上

株式会社 あずみ野エコファーム（養豚経営・長野県大町市）

## 地域の概要

大町市は、北アルプスの麓に位置し、市の西部には、標高3000mの広大な北アルプス、東部には1000m近い山々が連なる、山に挟まれた盆地を高瀬川が南北に縦断する豊かな自然に恵まれた地域である。

気候は、内陸性気候で冬季は雪が多く、1月の平均気温はマイナス2.9℃と亜寒帯と温帯の境に位置し、冬季は-15℃以下になる日も珍しくない。年間降雪量は525cmである。

農業では、戸数で見ると、耕種の割合が78.8%、畜産の割合は21.2%となっている。畜産農家戸数は、酪農2戸、肉牛1戸、養豚2戸、肉用鶏1戸である。農業算出額の割合が高い畜種は養豚で、同市の畜産農業の農業算出額全体の87.1%を占めている。



（写真1）左から経営主の川上志江さん、後継者の弾さん、その妻の夕起さん

## 経営管理・生産技術の特色

### 【おいしい肉質は給水と飼料から】

給水・飼料給与にこだわって豚の質を向上させている。給水については、長野県は1級河川が多数流れているなど、水に恵まれており、その湧水や雪解け水を豚に給与している。

飼料は前代表が15年前にデンマーク視察で

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭（羽）数	飼料作付面積	経営・活動の内容
S56		繁殖雌豚60頭	水田4ha	給料制導入 堆肥を水田に還元
S16		繁殖雌豚120頭	水田4ha	リキッドフィーディング導入 ソーセージ加工（H15まで）
H5		繁殖雌豚180頭	水田10ha	
H10		繁殖雌豚180頭	水田10ha	農事組合法人大町農産から （株）あずみ野エコファームへ 社名および法人形態を変更
H20		繁殖雌豚230頭	水田については 平成25年に中止	
H28		繁殖雌豚230頭		ハイブリット豚TOPIGS導入
H29		繁殖雌豚250頭		農場HACCP認証取得（7月）

(表2) 経営実績 (平成29年度)

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族構成員	3.1人	
			従業員	3.1人	
	種雌豚平均飼養頭数		246.0頭		
	肥育豚平均飼養頭数		1,442頭		
	年間子豚出荷頭数		0頭		
収益性	年間肉豚出荷頭数		3,914頭		
	所得率 (構成員)		18.8%		
生産性	種雌豚1頭当たり生産費用		537,073円		
	繁殖	種雌豚1頭当たり年間平均分娩回数		2.36回	
		種雌豚1頭当たり分娩子豚頭数		30.9頭	
		種雌豚1頭当たり子豚離乳頭数		23.4頭	
	肥育	種雌豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数		16.0頭	
		肥育豚事故率		16.7% <small>(離乳時からの事故率)</small>	
		肥育開始時	日齢	66日	
			体重	30kg	
		肉豚出荷時	日齢	195日	
			体重	108kg	
		平均肥育日数		129日	
		出荷肉豚1頭1日当たり増体重		0.605kg	
		トータル飼料要求率		5.01	
		肥育豚飼料要求率		4.13	
		枝肉重量		75.9kg	
販売価格		肉豚1頭当たり平均価格		39,013円	
	枝肉1kg当たり平均価格		514円		
枝肉規格「上」以上適合率		57.0%			

学んだ技術を導入し、循環型農業を目指せるとの考えからリキッドフィーディングを採用した。国内でも先駆的な事例であり、導入初期は欧州製の危機から国産への転換など苦労も多かった。現在は90日齢以降の肥育豚に給与している。

あずみ野エコファームでは、(株)日本フードエコロジーセンター(本社：神奈川県相模原市)の液状飼料を給餌しており、1.5日に1回の頻度で、20t/回を購入している。(株)日本フードエコロジーセンターの工場は神奈川県相模原市にあるエコフィードの製造事業者で、関東近郊の食品工場やスーパー、百貨店などから出た食品残さを原料にエコフィードを製造している。

エコフィードを利用することでコストが削

減できるだけでなく、液状飼料にすることで、臭気を抑制し、粉じんがなくなるので豚の肺炎や咳が減少した。

また、このほかにポテトリキッド(ジャガイモの皮と芽、酵素を主原料とする)、配合飼料を発育ステージに合わせて再配合し給与している。ポテトリキッドはエコフィードの油分の多さを緩和するために給与している。

生産した肉は「肉色が良く、柔らかくとろけるような食感」との評価を得ている。現在は、繁殖豚への給与は配合飼料主体だが、今後切り替えを進め、デンマークやアメリカのように全ステージでエコフィードを給与したいと考えている。

また、あずみ野エコファームの生産した豚肉は、山梨県、静岡県で「安曇野げんき豚」として販売され、神

奈川、東京に小田急商事(株)が展開するスーパーマーケット「小田急OX」では乳酸発酵飼料育成豚「優とん」として販売されている。

このように、スーパーマーケット等から出る食品残さ由来のエコフィードで肥育した豚肉を、スーパーマーケットで販売する「リサ



(写真2) 「肉色がよく、柔らかくとろけるような食感」と評価されている



(写真3) TOPIGSへの切り替えを進めている

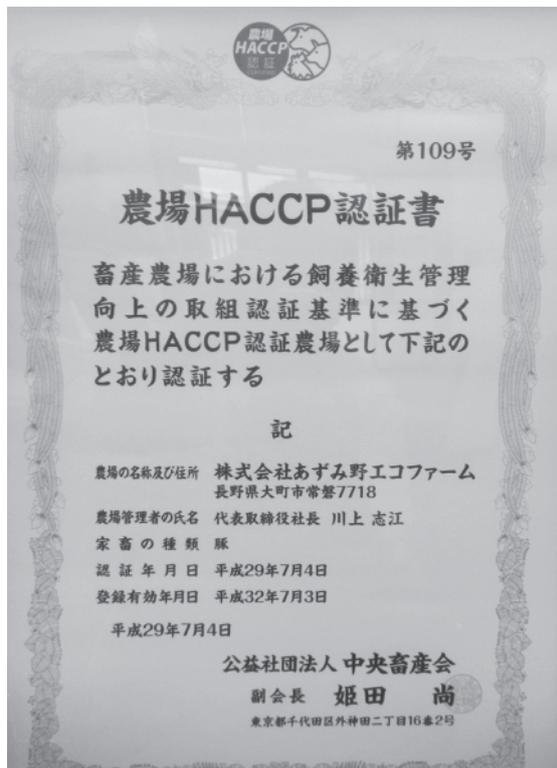
イクループ」を構築している。

### 【TOPIGSへの切り替え】

平成28年度よりTOPIGSの導入を開始し、現在では全体の65%がTOPIGSとなっている。切り替え途中であることから更新率が高くなっている。今後、平成31年夏ごろをめどに全頭TOPIGSに切り替え、ブランド化による高付加価値化につなげていきたい。

### 【農場HACCP認証の取得】

平成29年7月には農場HACCP認証を取得した。農場HACCP認証取得に向け社内会議



農場HACCP認定証



(写真4) 現在は90日齢以降の肥育豚にエコフィードを給与している

などを行う中で、食の安全を守らなければいけないという社員の意識が向上し、これまで分かっていたようであり意識してこなかった「この作業は何を目的としているのか」や、「自分たちは食べるための肉を生産している」といったことが意識できるようになった。また、作業を文書化する中で、ひとつひとつの手順を見直し、より効率的な作業ができるようになった。

### 耕畜連携の活動

生産した堆肥は、有機肥料「有機凜々」として主に野菜農家に販売されている。有機農業を実践している地元の野菜農家からは、臭いも少なく成分的にも優れていると評価されており、「ビニールハウス内でも使える」と、売り上げは好調である。

また、リキッドフィーディングを給与する養豚業、その堆肥を畑作農家へ供給することで、循環型農業を長年実施しており、平成27年に(株)日本フードエコロジーセンターとともに「エコフィードを活用した畜産物生産の優良表彰」(主催：中央畜産会)において優秀賞を受賞している。

このほかにも、地域の方への日ごろの感謝も込めて、夏場には軽トラック1台分の堆肥の無償提供イベントも行っている。



(写真5) 敷料にはおが粉を使用

## 地域に対する貢献

良質な豚肉や堆肥生産などで各方面から高い評価を受けるあずみ野エコファームだが、臭気問題によって近隣の住民から受け入れてもらえない時期が長く続き、地域との相互理解が継続的な課題である。

そのため、堆肥の製造を従来のローダー切り返しからスクープ式堆肥発酵装置に切り替え臭気を抑制するとともに、関係機関による対策回委員会を開催し定期的に周期測定を行っている。

また、定期的に地域との懇談会を行っている。污水处理では、長野県は1級河川が多く、汚水を川に流せないため、市と協議した結果、下水放流が決定した。これにより、処理コストはかかるが汚水が敷地外に流れることを確実に防ぐことができるようになった。

また、地域住民とで意見交換を行い、農場HACCPの取り組みを説明するなど住民の理解を醸成するとともに、農場管理にさらに気を配りながら臭気自体を激減させた。現在では、真摯に住民の不満を受け入れて具体的に問題解決を図るその姿勢が地域住民に受け入れられ、近隣関係が良い方向に向かっている。

また、食育活動の一環として、地元小学校

の学校給食に月1回、あずみ野エコファームで生産された豚肉を提供している。

## 生活の視点の配慮について

現在、5人の従業員が働いており、市内および近隣町村から通勤している。就業時間は午前7時から午後4時30分で、終業時間を遵守し残業内容配慮するとともに、週休2日、夏季休暇3日を確保するなど、従業員定着のための努力を行っている。また、新入社員は最初からフルタイムの稼働をさせるのではなく、徐々に仕事に体を慣らしてもらうよう一定期間労働時間を短縮しての勤務としている。

暑気払い、忘年会などを通じて従業員とのコミュニケーションを重要視にしているほか、従業員全員にお歳暮として、豚肉1kgパックを進呈している。就労環境にも配慮しており、従業員用更衣室、男女別のトイレを完備している。さらに、寮が必要な場合は対応できるよう、事務所2階を居住空間として確保している。

現在、従業員は5人中2人が女性で、役員・家族を併せると女性比率50%である。

## 将来の方向

### ① 次世代への継承（経営の持続性）

経営継承の事業を活用するなど、5カ年計画を立てて実行する予定。

### ② 今後の経営計画

規模を拡大し、生産効率を向上させて肉豚出荷頭数を増加させる。また、従業員とのコミュニケーションを大切にして、経営に活かしていく。